

■今月の特選句

2022年5月



意地を見せ腸見せぬ焼栄螺

小林英昭

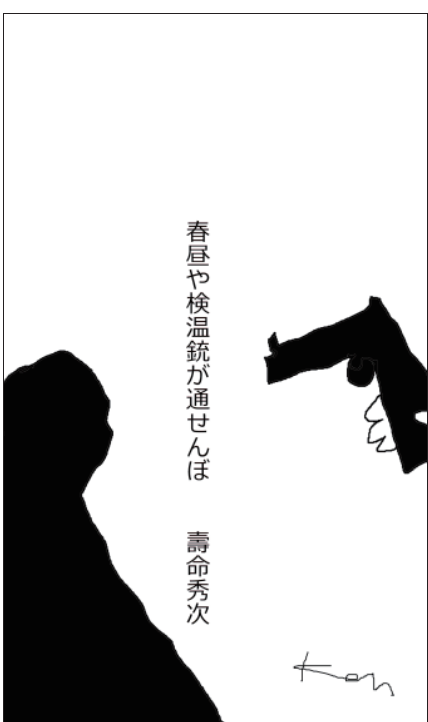
腸は「はらわた」と読む。栄螺の蓋を開けると身があってその奥に肝がある。うまいが切れやすく取りにくい。腸に本心という意味もかけてある。



しゃぼん玉かがくの色を輝かす

山本 賜

シャボン玉の表面が虹色に見えるのは、膜の外側と内側で反射する光の「光の干渉」という現象のため。「かがくの色」は誰にもできない詩の表現。



春昼や検温銃が通せんぼ

壽命秀次

ピストル型の検温器は、オデコで測るからギクリとする。看護師さんに「前髪をあげろ」「帽子をとれ」と言われると、それだけで血圧が上がる。

2022年5月

■今月の特選句



重力の束が丸見え藤の花

花岡直樹

「重力の束」ときたか。なるほど巧い表現である。しかも「丸見え」とは嬉しいね。若干猥褻な用語だが、上品な藤房との組み合わせがいいね。



専制のリーダーをらぬ蝌蚪の国

峰崎成規

目高の学校も蝌蚪の国も、平和で権利も守られ、みんなが助け合って生きている。専制君主など存在しない。人間も見習わにやならんぞ。



ポリバケツ蹴っ飛ばしたる春一番

和田のり子

とかく俳人は春一番の元気を褒めたりするが如何なものか。奴は時に狂暴だ。「蹴っ飛ばしたる」の俗ながら率直な表現に特徴がよく出ている。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

毎日が万愚節ロシアのテレビ ・・・朝からずっとプロパガンダよ	土屋泰山
幸せを計る日永の立ち話 ・・・不要不急をできるぜいたく	柳 紅生
カッターナイフで空を切り裂き初燕 ・・・それでは空に絆創膏だ	渡部美香
まず尻を持ち上げて立つ花筵 ・・・尻はどこまでドッコイショ	浜田イツミ
釈迦如来くすぐったかろう御身拭 ・・・釈迦は細目で気持ちいいかも	青木輝子
兄弟に討たるる春のウクライナ ・・・まさか家族に裏切られるとは	村松道夫
眠るに早し仕事に遅し春の宵 ・・・ならば二三句俳句つくろう	日根野聖子
次の世は白い子猫になる予定 ・・・いい子にせんと無理かも知れぬ	谷本 宴
地続きの国の難儀やつむじ風 ・・・だけど無防備海岸線は	竹下和宏
海見えてのどかや太きにぎりめし ・・・カロリーなんぞ気にせんでよし	井口夏子
囀の色と問はれて黄と答ふ ・・・音のパレットいつもカラフル	吉川正紀子
妙案が浮かばぬままに座禅草 ・・・月末までになんとかせんと	稲葉純子
ひとりゐて一詩生まれる花吹雪 ・・・早速それを投句ハガキに	稲沢進一

■今月の滑稽句

* 今月の特選句・秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

ウソホントウソがホントの鷺をどり
 二日灸三里のつばは覚悟して
 吠えられし犬に合掌遍路去る
 賃上げのない年金者めざし焼く
 いつの世も老若問わず恋は花
 花疲れピアノを見るとドを叩く
 六畳に誰も来ぬまま雛納
 犬は寝てゐる春眠のせいかしら
 ぜんまいの渦のまなかの？かな
 キリンのまぶた重くたれたる春眠し
 狐どの自販機に木の葉使えませぬ
 恐るべき姐御の乳房女性時代
 花粉症罪なき杉へ八つ当たり
 消防車出動させる野焼かな
 四月馬鹿値上げラッシュに音を上げる
 佐保姫の大和さんざん尿に濡れ
 春眠の大きな猫に鬣(たてがみ)が
 薄氷を閉ぢ込めてゐる厚氷
 咲き満ちて一枝拝借夕桜
 大空に凧を揚げたる子どもかな
 群れ咲けどその名は一人静かな
 田蛙に騒音防止条例を
 老二人四月馬鹿の日忘れけり
 散歩する犬も見上ぐる桜かな
 春眠のための座席や電車揺る
 土筆の子とろうとすれば目をふせる
 朝の春光カーテンを押し開く
 花びらは痛がる路面に不時着で
 三日月のどこかに隠れ月兎
 ペンギンがとびこみ散りちり花筏
 花見ざんまいもういいといふほどの
 他人井を好きなプーチン五月闇
 雪柳コロナ熱より創句熱
 五月富士俯瞰してゐる一都五県
 燕の巣下には内科クリニック
 古木の花今年けじめをつけるかに
 花びらを外し聞いているチューリップ

相原共良
 相原共良
 相原共良
 青木輝子
 青木輝子
 赤瀬川至安
 赤瀬川至安
 赤瀬川至安
 井口夏子
 井口夏子
 池田亮二
 池田亮二
 石塚柚彩
 石塚柚彩
 石塚柚彩
 伊藤浩睦
 伊藤浩睦
 伊藤浩睦
 稲沢進一
 稲沢進一
 稲葉純子
 稲葉純子
 井野ひろみ
 井野ひろみ
 井野ひろみ
 上山美穂
 上山美穂
 上山美穂
 梅野光子
 梅野光子
 梅野光子
 遠藤真太郎
 遠藤真太郎
 遠藤真太郎
 大林和代
 大林和代
 大林和代

春嵐天守の夜景乱さる
 朧月うつつも夢の色をして
 椿展椿の一句明明と
 朝を知らせる鶯の大音量
 新緑色となる新緑をみる眼
 エコライフ独活の皮まで食べてゐる
 好き嫌ひ鹿尾菜に暗黒みたりけり
 開花してじゃん拳に負け辛夷かな
 春の闇楽しみながら盗み酒
 突然に恐がりになる春の闇
 水温し伊予の山々緑なる
 四万十の天空に鷹飛遊する
 喜怒哀楽色即是空遍路旅
 崩るるは開く前から枝垂桜
 プーチンはほんとに困る沈丁花
 春一番犬が真実(まこと)を見て吠える
 境界は崖つぶちだよ蕨つむ
 トリトンのラッパパカパカ黄水仙
 波に浮くブイの踊るや春の潮
 仏滅を気にしていない春の空
 猫又と目の合つてゐる春夕べ
 手で鳩を作つて舞はす春の空
 春雨にぬれてゆくのもやりつくし
 春の風邪メロン一個をせしめけり
 促されはやされ桜五輪咲く
 雛聴く女孫のひみつ願ひごと
 春眠や地獄極楽紙一重
 しんがりに引いて大凶春一番
 偏屈はトレードマーク卒業す
 誤字脱字だらけの詫び状山笑う
 カラスから逃げろ頑張れ瀬の蛙
 ア行もカ行もすっかりサクラ
 教科書に有ったか無かったか脱炭素
 天気予報の雪だるまが動いてるよ
 茶摘唄機械でつむはまだ知らず
 停電や節電ですと風光る
 人の世は急がば回れ落第子

小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 小笠原満喜恵
 岡田廣江
 岡田廣江
 岡田廣江
 北熊紀生
 北熊紀生
 木村 浩
 木村 浩
 金城正則
 金城正則
 金城正則
 久我正明
 久我正明
 久我正明
 工藤泰子
 工藤泰子
 工藤泰子
 桑田愛子
 桑田愛子
 桑田愛子
 小林英昭
 小林英昭
 壽命秀次
 壽命秀次
 白井道義
 白井道義
 白井道義
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 鈴木和枝
 高田敏男
 高田敏男
 高田敏男

激雷や原発巣は肺にあり
 初夏や澁刺の文字消え失せり
 老人も愛らしく見え雛祭
 啓蟄や若者何を企むか
 春の山ガイドの説明ちぐはぐで
 卒業す学業おいてけぼりにして
 春の靴見上げるほどに孫育ち
 此の星に天災人災冴返る
 ゼロひとつ見落とし買った春コート
 春だからヴィヴィアン・ウエストウッド
 露の臺伸びて手招きしてをりぬ
 万歩計つけてブランコゆつさゆさ
 春の服LとLLわからない
 母の味よりインスタントよ蜆汁
 春の雪使えぬままの食事券
 来賓の省略されし卒業式
 お彼岸に美颜鍼するお岩さん
 並べたら布団を敷けぬ雛まつり
 啓蟄私の足はまだひえひえ
 ポーズとる花かんざしのゆれやまず
 チュンチュンは朝のあいさつ雀の子
 畑より拾ひ集めて豆の飯
 八百の幟見上ぐる休耕田
 朝刊を新樹の下に拵げきる
 新参の居場所はどこにするべきや
 山々を黄砂が塗り替えセピア色
 常節は武士の子孫と胸を張る
 夜桜をひとり占めして鈍川の湯
 通学路子等の声待つチューリップ
 たんぽぽに何を問うてる幼き子
 急ぐ訳娘に言わず雛納
 山笑うマネしてむくむくビアの泡
 穴の外見て見ぬふりせず蟻たちは
 オミクロンの陽陽介護沈丁花
 夜叉の面ふつと弥陀めく花あかり
 ふらここや降りるチャンスをまた逃し
 たんぽぽの絮毛みたいね古稀の恋

竹下和宏
 竹下和宏
 田中 勇
 田中 勇
 田中 勇
 田中早苗
 田中早苗
 田中早苗
 田中早苗
 谷本 宴
 谷本 宴
 田村米生
 田村米生
 田村米生
 月城花風
 月城花風
 月城花風
 土屋泰山
 土屋泰山
 坪田節子
 坪田節子
 坪田節子
 飛田正勝
 飛田正勝
 飛田正勝
 長井知則
 長井知則
 長井知則
 永易しのぶ
 永易しのぶ
 永易しのぶ
 花岡直樹
 花岡直樹
 浜田イツミ
 浜田イツミ
 浜田京子
 浜田京子
 浜田京子

一木(いちぼく)に姿を隠し囀りぬ
 水仙の向き合ふことを忘れけり
 残る鴨衛士のつもりの御陵かな
 東風吹かばどれにしようかイヤリング
 思いきりあくびをすれば水温む
 お花見に無理やり参加させ子犬
 手に触れて造花とわかる桜かな
 かつがれることなく過ぎて四月馬鹿
 大掃除頭の中はごみ屋敷
 うちの猫どこに居るのか大掃除
 大掃除足の踏み場を探しつつ
 花見頃解除解除の空元気
 水温むコロナに慣れて気も緩む
 温め酒当てに田楽胃が笑う
 いつからか苦味のうれしふきのとう
 カルメンめく椿啜えし恋の鳥
 花虻の花なき門へ八つ当たり
 春疾風監視カメラを避けに避け
 密談に蛤口を閉ぢたまま
 もう少し寂しく鳴けよ春の鴨
 イチローの髭思ひ出すつくしんぼ
 老残のオランウータン水温む
 契約を二日に伸ばす四月馬鹿
 愚痴一つこぼれておらず遍路宿
 花吹雪いま神が立ち上がる
 賑はひをじつと見てみる山桜
 あんぱんの臍に咲かせてさくら漬
 落ちたい椿とそうでもない椿
 しあわせの二番目にある朝寝かな
 神様が光らせたから風光る
 門前の団子売り切れ鐘霞む
 船長の鼻歌まじり春の波
 牛の歩も軽やかとなり牧開き
 太陽を地に呼び込みて畑を打つ
 永き日や噂はひとり歩きして
 またこいよ涙の別れ鳥帰る
 晴舞台首ながく待つチューリップ
 つちふるや疫病いまだ黄信号

久松久子
 久松久子
 久松久子
 日根野聖子
 日根野聖子
 廣田弘子
 廣田弘子
 廣田弘子
 藤森荘吉
 藤森荘吉
 藤森荘吉
 細川岩男
 細川岩男
 細川岩男
 南とんぼ
 南とんぼ
 南とんぼ
 南とんぼ
 峰崎成規
 峰崎成規
 椋本望生
 椋本望生
 椋本望生
 村松道夫
 村松道夫
 森岡香代子
 森岡香代子
 森岡香代子
 八木 健
 八木 健
 八木 健
 八塚一青
 八塚一青
 八塚一青
 柳 紅生
 柳 紅生
 柳村光寛
 柳村光寛
 柳村光寛

思いがけずパセリびよこびよこ春の庭
 菜の花の点描鈍行列車行く
 パック寿司傾かせるか春疾風
 今昔の日暮別邸さくら色
 長閑なる春の遠足喉が鳴る
 若木らの栄養ドリンク春の雨
 勝負師の月に盃宵桜
 宵桜心の闇を清めたる
 花曇散る花びらは雨かとも
 七人の敵と戦ふ囀の雄
 春昼の先生の声子守唄
 花冷の廃屋新築ビルの横
 雑草にひっかかっている冬ひざし
 スケボーと区切ってこちら黄水仙
 クリムの「接吻」はらり春の果
 雁風呂や服喪の夜のつけ睫毛
 牛突きや上皇配流されし島
 声だけの鶯相手のかくれんぼ
 立春や万能薬の朝日浴ぶ
 受験子の後ろ姿を爺婆が
 無罪放免これより雪解水
 流されて縁切り果てた夫婦雛
 蜥蜴は穴を出るに出られず春の地震
 春遠し酒を飲むなとめられて
 ばかでかい窓から見れば蟻の列
 竹の子の網目を帯びて括られる
 豊穰の露のしゅうとめ採らず過ぐ
 囀れりキャンバスへ光差し込めば
 目借時テレビはひとりしやべつてる
 一服のお茶を楽しみ二月尽
 春暁に向かひ万物深呼吸

山内 更
 山内 更
 山内 更
 山岡純子
 山岡純子
 山岡純子
 山下正純
 山下正純
 山下正純
 山田真佐子
 山田真佐子
 山田真佐子
 山本 賜
 山本 賜
 山家志津代
 山家志津代
 山家志津代
 横山洋子
 横山洋子
 横山洋子
 吉川正紀子
 吉川正紀子
 吉野 仁
 吉野 仁
 吉原瑞雲
 吉原瑞雲
 吉原瑞雲
 渡部美香
 渡部美香
 和田のり子
 和田のり子